ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E1440019	障害児研究　(Study on Special Education　)		

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択必修	2	3	教育学部	後期	水3	氏名　衛藤裕司・古長治基・五位塚和也 E-mail　eto@oita-u.ac.jp, h-kocho@oita-u.ac.jp, k-goitsuka@oita-u.ac.jp　内線

授業の概要

特別支援学校において行われる教育研究の概要・方法について学ぶ。学校における教育研究の位置づけを学んだ後、発表・公表されている教育研究の調査を行い、教育研究レポートの書き方について学ぶ。同時に、教育研究を行う上での倫理についても学ぶ。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	特別支援学校で行われる教育研究について、その位置づけ・校内体制について説明できる。		○								
目標2	特別支援教育に関する教育研究の情報を幅広く収集できる。		○								
目標3	特別支援教育における研究レポートの書き方に沿った記述が出来る。			○							
目標4	特別支援学校において行う教育研究の倫理について説明できる。	○									
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	特別なニーズのある子ども達のための教育研究の意義
2	特別なニーズのある子ども達のための教育研究の位置づけ（学校の教育目標との関連、文科省・県の研究開発学校・研究指定校制）
3	特別なニーズのある子ども達のための教育研究の位置づけ（学校における研究体制と研究部・個人研究）
4	特別なニーズのある子ども達のための教育研究１（文献の収集：特別支援学校内、県内の特別支援教育関連機関、CiNii論文情報ナビゲー タ）
5	特別なニーズのある子ども達のための教育研究２（研究方法：実験的研究法、事例研究法、調査）
6	特別なニーズのある子ども達の国策的研究（文部科学省、国立特別支援教育総合総合研究所）
7	特別なニーズのある子ども達のための教育研究レポートの始め方
8	特別なニーズのある子ども達のための教育研究レポートのスタイルと表現形式
9	特別なニーズのある子ども達のための教育研究レポートの書き方の各部分の書き方
10	特別なニーズのある子ども達のためのデータの分析・解釈・報告
11	特別支援教育に関する県内の研究会（大分県教育センター、附属特別支援学校）
12	特別支援教育に関する学会（日本特殊教育学会他）
13	特別なニーズのある子ども達のための教育研究における倫理1：研究における倫理
14	特別なニーズのある子ども達のための教育研究における倫理2：具体的課題
15	教育研究の実践例

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認		ディスカッションなど参加者が主体的に意見を述べ、議論する機会を設ける。	学会誌等からの情報収集
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造			

時間外学修の内容と時間の目安	
準備学修	指定された文献を収集し，読んでおくこと。指定された内容に関するレジメを作成しておくこと(15h)。
事後学修	講義時間に指摘された内容をまとめ，理解を深めておくこと(15h)。

教科書

教科書は指定しない。

参考書

参考書・参考資料等
1　「障害児教育の研究法」，田研出版 ，1995年，D.M.マーテンズ他著　中野善達ら訳　ISBN:978-4924339422
2　「実践障害児教育」月刊　学習研究社

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
発表・議論への参加	50%	○	○								
課題レポート	50%			○	○						

注意事項

授業の内容上、特別支援教育コースの学生に限る。

備考

なし。

リンク

URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	五位塚和也（臨床心理士・公認心理師）
実務経験をいかした教育内容	臨床心理士・公認心理師として小学校、中学校、高等学校および特別支援学校における勤務経験を活かし、学校現場や障害のある子どもの指導・支援に関する今日的課題について解説し、研究を通して学生の課題解決能力を養うことができるよう授業を展開する。